

Special Needs Education Research Center

SNERC通信

(第40号-2016年3月)

国立大学法人 筑波大学
 特別支援教育研究センター
 センター長：宮本 信也
 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
 TEL&FAX：03-3942-6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
 mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

未来を語ろう！

筑波大学特別支援教育研究センター 柘植雅義

目の前の道。とてもよく整備され、花が咲き、鳥が鳴いている。さあ行こう！、と誘われるが、そもそもその道はどこに通じているの？

まずはこれをやってみよう！、と誘われる。面白そう、すぐに始められそう。でも、その次に何をするの？ 最終的に何をを目指すの？

どうも最近の世の中、目先のことや半年先やせいぜい1年先といった短期的なことばかりに注目しすぎて、もう少し先のことや中長期的なこと、ずっと先のことが話題になることが少ないように感じる。



特別支援教育はどうか。

例えば、個別の指導計画。一般的には、学期ごとの目標と1年間の目標から構成されるが、3年間、6年間、12年間といった目標の設定と記述は必要ないの？

例えば、「交流及び共同学習」。全国各地で盛んに行われ、その都度の成果は知らされるけど、6年間とか9年間とかでどのような計画を立てるの？

例えば、授業と授業研究。その授業は、1年後の授業にどのように繋がっていくの？ 今日の授業研究は、1年後の授業をどのように変えていくの？

例えば、教員向けの研修。終了直後の評価はまずまず。でも5年後10年後への影響は？そして、特別支援教育。この先どこに向かうの？ インクルーシブ教育の終点は？

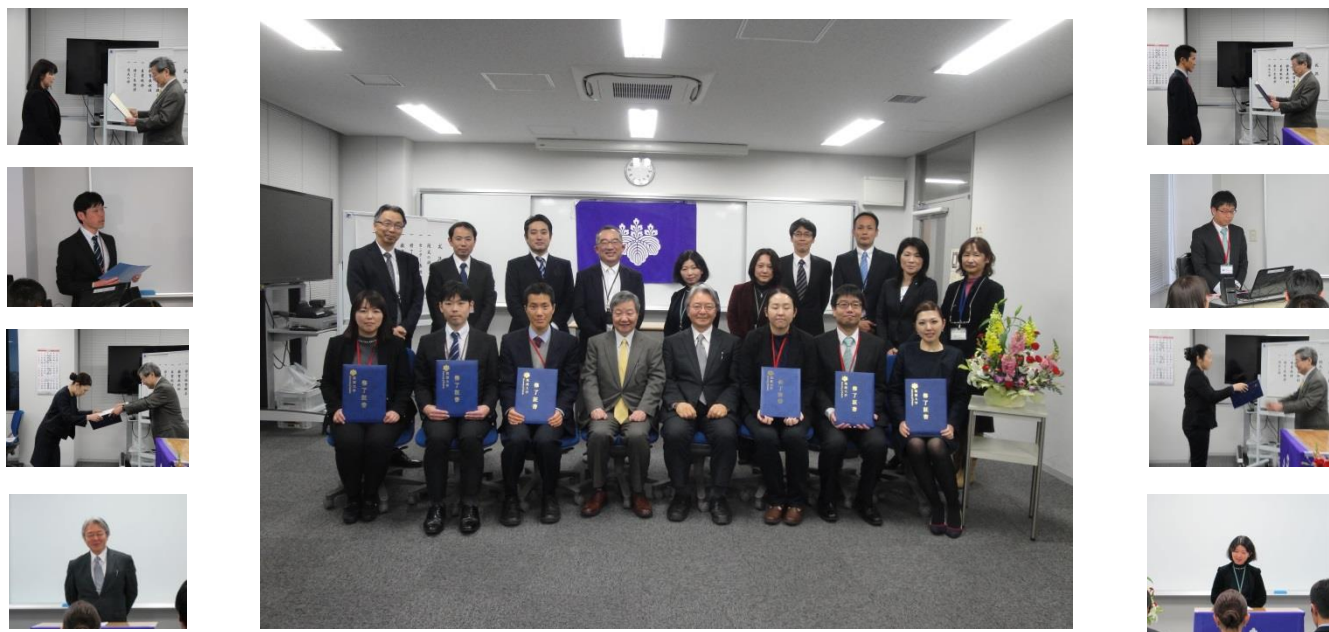
目先のことや短期的なことばかりに終始すると、時にルーティーン化してしまい、そして、その都度の少しばかりの果実の収穫を味わい、それで何となく安心してほっとして納まってしまふ。まさに、忙（せわ）しく繰り返される極短のPDCAサイクルの“罠”にはまり込んでしまふ。もはや「未来」なんて考えなくなってしまう。それどころか、「未来」という言葉を発すること自体が歓迎されなくなり陳腐化してしまふ。

だからこそ、今まさに未来を語ろう！ もっと大きな果実を収穫するために。

「われわれは、飛行機はきっと空を飛ぶと確信していた。」（ライト兄弟）

■平成 27 年度現職教員研修生 成果報告会・修了式

3月10日（木）、6名の研修生の成果報告会および修了式が行われました。どの研究報告も質の高い興味深いものであり、研修生の1年間の苦労や達成感を感じさせる報告会となりました。研修にご協力いただきました各学校の先生方ならびに成果報告会、修了式にご出席いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。



研修タイトル一覧

氏名（所属校）とタイトル	指導教員
岩田 理恵（埼玉県立特別支援学校塙保己一学園） 視覚障害と知的障害を併せ有する重複障害児の一人一人の可能性を伸ばす支援づくり －「見通しをもつ」支援に着目して－	佐島 毅
奥田 裕幸（北海道手稲養護学校） 肢体不自由特別支援学校における教師の同僚性への認識と働きかけるプロセス	安藤 隆男
小野 勝（千葉県立君津特別支援学校） タブレット型端末を活用した発話の困難な知的障害児への支援に関する研究 －朝の会の司会の場面を通して－	柘植 雅義
鈴木 裕（静岡県立沼津聴覚特別支援学校） 聾学校・特別支援学校（聴覚障害）幼稚部における交流保育のあり方	左藤 敦子
関口 一秋（市川市立高谷中学校） 小・中学校通常学級における発達障害児への合理的配慮に関する研究 －日常生活場面に焦点を当てて－	柘植 雅義
南館 早苗（千葉県立松戸特別支援学校） 重度・重複障害児のわずかな動きを手がかりとしたコミュニケーション行動の形成	安藤 隆男

★研修報告書の貸出を行っております。ご希望の方はセンターまでお問い合わせください。

■指導教員から現職教員研修生へ

研修生の皆さん、修了おめでとうございます。研究に没頭した1年間、楽しかったと思います。でも、これからの年月の方がもっと楽しいと思います。なぜなら、この1年間で、研究の面白さを知り、研究を進めるスキルを身に付けたからです。研究を味方に付けた教員人生がいよいよ始まるのです。この1年を遠い昔の思い出にしないように。



柘植雅義

皆様の修了を心よりお祝いを申し上げます。志をもって学んだ者同士ゆえに、1年という歳月は互いの絆を意識するに十分であったと考えます。今後、絆の意識はさらに醸成されるでしょう。私たちはそのような機会を提供できたことを誇りに感じます。奥田、南館両先生は、筑波キャンパスで時間を共有した学生にとって大きな存在でした。学生に代わり感謝いたします。



安藤隆男



4月当初は、学校とは違う空気に戸惑われたことと思いますが、センターでの1年間はいかがだったでしょうか。研修で学び得たことと同じくらいに、「研修生の仲間」は大きな研修成果です。これを機に、大きな輪が広がるとよいなあと思っております。私も、この1年間、いろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました。

左藤敦子



ルーティンのない自由な時間で得た経験は、これからの職業人生の支えとなり糧となります。1年間で得たものを未来にいる子どもたちにかえし、成長への投資として時間をつくって研修に足を運びましょう。「給料の5%は自己研修のために使う」を合い言葉に。それぞれの地域での活躍を期待しています。修了、おめでとうございます。

佐島 毅

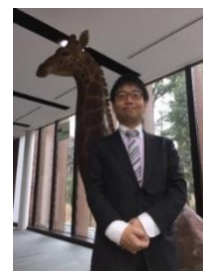
■現職教員研修生日記

千葉県市川市立高谷中学校 関口一秋

4月に1年間という貴重な時間をいただいて始まった現職教員研修もあと少しとなりました。筑波大学特別支援教育研究センターの研修プログラムは、大変充実しており、特に5附属の附属特別支援学校における演習や講義、参観は今までの教員人生の中で最も充実した研修の時間となっております。また、柘植雅義先生には大変御多忙にもかかわらず、研究の基礎から特別支援教育の未来、教員としてのあるべき姿などを丁寧に御指導頂き、深く感謝申し上げます。

個人研究では「発達障害のある児童生徒への合理的配慮」をテーマにあげ、発達障害の子どもが日常生活場面で自信を持って行動し、充実した学校生活を送るための合理的配慮について整理し、一覧表にまとめる研究を進めてきました。これからは、今まで以上に障害のある人もない人も共に学び、共に歩んでいける学校を作るために、この1年間で学んだことを生かして日々努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、この1年間サポートしていただいたセンターの先生方や研修先で教えて頂いた先生方、同じ現職研修生の仲間、いつも応援してくれた家族に感謝いたします。本当にありがとうございました。



千葉県立松戸特別支援学校 南館 早苗



この一年間は、私にとっては「出会い」と「つながり」の年でした。所属校から離れて、県内や他県の先生と一緒に参加した研修、大学の学生と一緒に受けたゼミや講義、現職教員研修プログラムの講義・演習等、様々な研修を受けさせていただきました。また、事例研究では、「重度・重複障害児のわずかな動きを手がかりとしたコミュニケーション行動の形成」を主題として、事例生徒と向き合い、試行錯誤しながら検証授業をさせていただきました。研修・研究を通して、自分が今までいかに狭い世界の中で過ごしてきたか、当たり前のことを理解していなかったかということに気付くことができました。自分が今まで知らなかった人や知識、経験と「出会い」、多くの人と「つながり」、教師としての自分を振り返り、自分の中での知識と経験を「つなげる」ことができました。この一年間で得たものを、今後の学校生活の中で少しずつ生かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、筑波大学特別支援教育研究センターの先生方、特に指導教員の安藤隆男教授には、大変お世話になりました。本当に、ありがとうございました。

附属ニュース（附属久里浜）

わくわく学校デザインプロジェクト始動

味気ない校舎の壁面デザインを、PTAの保護者や子供たちと一緒に考え、本年はまず「海の生き物シリーズ」として、守衛室を「皇帝ペンギン」に、寄宿舍玄関に「シロナガスクジラ」、幼稚部玄関に「ジンベイザメ」を出現させました。これからも沢山の生き物が続々と生まれる予定ですので、お楽しみに。



■主催セミナーのご案内

当センターでは、セミナー第20回「シリーズ特別支援教育の伸展（5）-特色ある教材及び指導法データベースの公開-」を開催いたします。第一部では、附属特別支援学校間の連携研究の報告、第二部ではデータベースに関する事業報告と、実際に「教材・指導法データベース」に載せる教材について、附属特別支援5校より、1例ずつ作成者をご紹介いたします。このデータベースには、既に学内外の方から多くの関心が寄せられております。セミナー参加をご希望の方はメールまたはFAXで申し込み下さい。

- 期 日 平成28年3月28日（月）
- 場 所 筑波大学文京校舎134教室（東京文京区大塚3-29-1）
- テーマ シリーズ『特別支援教育の伸展（5）-特色ある教材及び指導法データベースの公開-』
- 日 程
- 12:30 受付
- 13:00 開会挨拶及び趣旨説明 宮本信也（筑波大学人間系・特別支援教育研究センター長）
- 13:15 第一部 「筑波大学附属特別支援学校間連携研究報告」
 - ①知的障害児・肢体不自由児への効果的な食育推進プログラムの開発
土田裕美（附属大塚特別支援学校）青山妙子（附属桐が丘特別支援学校）
 - ②特別支援教育におけるタブレット端末を活用した教材についての研究
白石利夫（附属桐が丘特別支援学校）石飛了一（附属大塚特別支援学校）
- 13:55 第二部 「筑波大学附属特別支援学校の特色ある実践事例とその発信」
 - ①筑波大学附属特別支援学校教材・指導法データベースについて
阿部 崇（筑波大学特別支援教育研究センター）
 - ②「視覚障害者に配慮して作成された地図・地球儀の活用」
丹治達義（筑波大学附属視覚特別支援学校）
 - ③「絵日記」
山中健二（筑波大学附属聴覚特別支援学校）
- 〈休憩〉14:55～15:15
 - ④「一緒にひっぱれば大きく広げろ！ビヨーンキャッチゲーム」
飯島啓太（筑波大学附属大塚特別支援学校）
 - ⑤「ビリビリテープ」
向山勝郎（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
 - ⑥「図形のかたはめ」
岡田拓也（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
岡 典子（筑波大学人間系）
- 16:15 閉会挨拶
- 申し込み お名前とご所属を明記の上、メール snerc@human.tsukuba.ac.jp もしくは FAX(03-3942-6938) にてお申し込みください。（定員100名 先着順）
- その他 情報保障等のご配慮が必要な場合は事前にご相談ください。